

2022年度 鉄道事業設備投資計画

～さらなる安全対策の強化、ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供を目指して～

京浜急行電鉄株式会社（本社：横浜市西区，社長：川俣 幸宏，以下京急電鉄）は長期ビジョンに掲げる「国内外の多くの人々の生活と交流を支え，持続的に発展する豊かな沿線」を実現するため，鉄道事業のさらなる安全対策の強化，ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供を目指し取り組んでおります。

2022年度は引き続き品川駅付近や大師線の連続立体交差事業，ホームドア設置工事等を推進するほか照明設備のLED化といった環境負荷低減に向けた施策にも取り組み，総額231億円の設備投資を行います。

また，羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設工事など，将来の成長に向けた投資についても着実に進めてまいります。

主な設備投資計画の内容は以下の通りです。

【2022年度鉄道事業設備投資計画の概要】

1. さらなる安全対策の強化

- (1) 連続立体交差事業の推進（品川駅付近・大師線）
- (2) 踏切安全対策の強化
- (3) 激甚化する自然災害への対策

2. ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供

- (1) ホームドア設置工事の推進
- (2) 駅改良工事（ホーム上家延伸・昇降機更新等）
- (3) 車両更新工事（フリースペースの設置・車内案内表示器更新等）

3. 環境負荷低減に向けた取り組み

- (1) 駅および車両照明設備のLED化
- (2) 省エネルギー設備への更新

4. 将来の成長に向けた投資

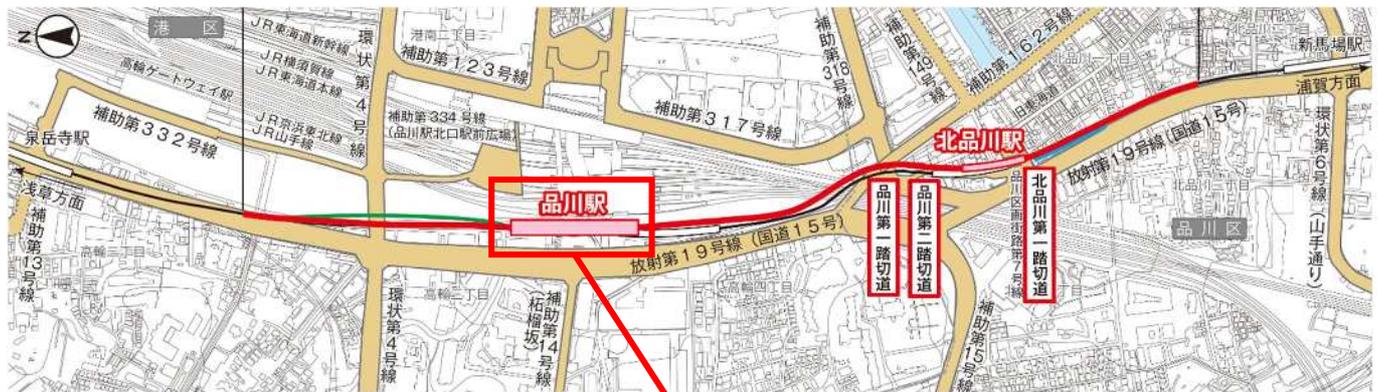
- (1) 羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設工事の推進
- (2) 非対面型駅窓口の拡大

2022 年度 設備投資計画の詳細について

1. さらなる安全対策の強化

(1) 連続立体交差事業の推進

イ. 品川駅付近（泉岳寺～新馬場駅間）連続立体交差事業



<事業区間の平面図>

凡例	
— (黒)	鉄道 (現況)
— (赤)	鉄道 (事業区間)
— (青)	保守用斜路
— (緑)	鉄道 (仮線)
— (黄)	都市計画道路 (事業中・完了)
— (茶)	都市計画道路 (計画)
- - - (黒)	区境

泉岳寺～新馬場駅間においては、品川第1踏切道（八ツ山通り）をはじめとする計3か所の踏切道が存在し交通渋滞の要因となっています。そのため、東京都の都市計画事業として同区間を高架化し、3か所の踏切道を除却いたします。

また品川駅の地平化および2面4線化を図り、利便性および安全性の高い駅へと再編いたします。

2022年度も工事を推進し、早期事業完了を目指してまいります。



<品川駅地平化イメージ>

ロ. 大師線連続立体交差事業

川崎市の都市計画事業である大師線連続立体交差事業のうち、段階的整備区間として、東門前駅付近～小島新田駅付近の約980mの区間を、2019年3月に地下へ切替えました。これにより、産業道路第1踏切道（東京大師横浜線）を含む4か所が除却されたことで、踏切事故の解消や、道路交通の円滑化が図られました。

2022年度は、引き続き地上部整備工事や、大師橋駅、小島新田駅の駅舎工事などを施工してまいります。



(2) 踏切安全対策の強化

2019年9月に神奈川新町第1踏切道で発生したトラックとの衝突に伴う列車脱線事故を踏まえた対策等、踏切道におけるさらなる安全対策を進めております。

イ. 発光信号機の増設

運転士のブレーキ操作にさらなる余裕を持たせるため、踏切道の異常を知らせる発光信号機の設置ルールを見直し、必要な箇所に増設を進めております。

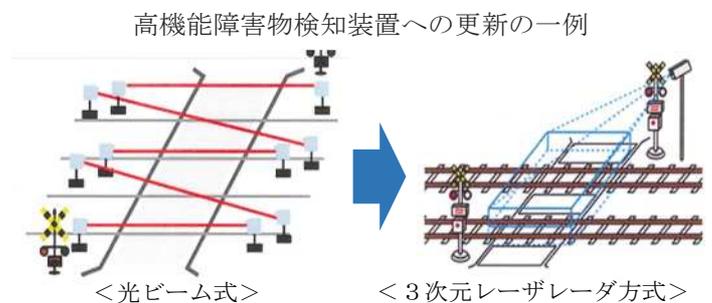


<発光信号機の増設例>

ロ. 踏切障害物検知装置

自動車が通行する踏切道（64か所）において、自動車の立ち往生を自動的に検知する装置を設置しており、従来の方式より検知機能を強化した方式へ更新を進めております。

（2022年度は3か所実施予定）



<光ビーム式>

<3次元レーザレーダ方式>

(3) 激甚化する自然災害への対策

近年増大する自然災害のリスクに備えるため、耐震補強工事、法面防護工事、大雨による浸水対策などを引き続き推進します。

- ・耐震補強工事：石積擁壁（神奈川駅付近）、高架橋脚（日ノ出町駅付近・南太田駅付近）
- ・法面防護工事：京急大津～馬堀海岸駅間、六浦～神武寺駅間
- ・浸水対策工事：川崎変電所



<六浦～神武寺駅間法面防護工事>



<神奈川駅付近石積擁壁補強工事>

2. ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供

(1) ホームドア設置工事の推進

お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するため、ホームドア設置工事を進めており、昨年度までに9駅に設置、2022年度と2023年度は計10駅の設置工事を進めてまいります。

設置完了済駅 (2021年度末)	平和島駅, 京急蒲田駅, 京急川崎駅, 京急鶴見駅, 横浜駅, 上大岡駅, 追浜駅, 羽田空港第3ターミナル駅, 羽田空港第1・第2ターミナル駅	9 駅
2022・2023年度 設置予定駅	梅屋敷駅, 八丁畷駅, 生麦駅, 京急東神奈川駅, 日ノ出町駅, 弘明寺駅, 杉田駅, 金沢文庫駅, 金沢八景駅, 汐入駅	10 駅



<設置例(追浜駅下りホーム)>

※上記駅以外も、設置に向けた調査・設計等を行い、引き続き各駅へのホームドア・ホーム固定柵の設置を積極的に進めてまいります。

(2) 駅改良工事(ホーム上家延伸・昇降機更新等)

雨天時の混雑緩和のためのホーム上家延伸のほか、駅舎の改築や駅設備(エレベーター・エスカレーター等)の改修を実施し、より快適にご利用いただける駅を目指してまいります。

- ・ホーム上家延伸・改修 対象駅：京急東神奈川駅, 黄金町駅
- ・エレベーター更新 対象駅：上大岡駅
- ・エスカレーター更新 対象駅：天空橋駅, 金沢文庫駅, 追浜駅

(3) 車両更新工事(フリースペースの設置・車内案内表示器更新等)

車体更新に合わせ、ベビーカーのご利用や大きなトランクをお持ちのお客さまが快適にご乗車いただけるようフリースペースを設置するほか、非常通報装置の増設、窓の開閉化などを行います。

また車両機器の更新では、車内案内表示器の液晶ディスプレイ化により多言語対応等を充実させます。

- ・車体更新：1000形：8両(4両×2編成)
- ・機器更新：1000形：24両(8両×2編成, 4両×2編成)



<フリースペース設置例>



<車内案内表示器の更新例>

3. 環境負荷低減に向けた取り組み

(1) 駅および車両照明設備のLED化

鉄道事業における環境負荷低減に向け、全駅および全車両照明設備のLED化を推進します。2022年度は羽田空港第3ターミナル駅など9駅のホーム・コンコース照明，車両は24両のLED化工事を実施いたします。



< 駅照明のLED化例（上大岡駅） >

(2) 省エネルギー設備への更新

駅のエレベーターやエスカレーターの更新時に省エネタイプの機器に代替することで使用電力量の削減を図ります。（エレベーターは最大約50%，エスカレーターは約10%の節電効果）



< エレベーター更新例（羽田空港第1・第2ターミナル駅） >

4. 将来の成長に向けた投資

(1) 羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設工事の推進

将来の航空旅客の増加を見据え、羽田空港アクセスのさらなる輸送力増強，利便性向上を図るため，国土交通省と当社で相互に協力して羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線の新設および駅改良工事を進めてまいります。

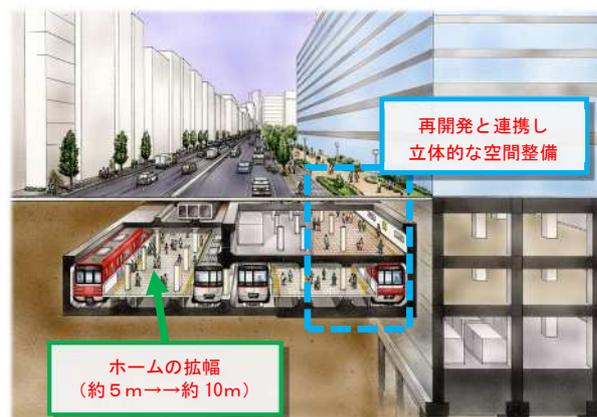
※引上線は車両入換え等を行う専用線



※Google マップから引用し当社作成

(2) 泉岳寺駅改良工事

泉岳寺駅および品川駅北周辺地区は将来の駅周辺地域の開発による交流人口の飛躍的な増加が見込まれております。これに伴い、泉岳寺駅のホームの拡幅およびコンコースの拡張や昇降施設、出入口などの機能強化を行い、駅の利便性、安全性の向上やバリアフリー化を図ります。また、この改良工事は駅隣接街区にて東京都が施行する市街地再開発事業と連携して進めてまいります。



< 泉岳寺駅改良工事のイメージ図 >

(3) 非対面型駅窓口の拡大

アフターコロナの新たなニーズへの対応および将来の労働力不足を見据え、駅務機器の遠隔操作とカメラ付き通話対応が可能なスマートサポートシステムを順次導入し、遠隔・非対面による新しい駅営業様式を拡大してまいります。(2022年度は8駅に導入予定)



< 導入例 (上大岡駅3階改札) >

以 上

2022年度の鉄道事業設備投資計画概要

安全対策、ユニバーサルで快適な施設整備、環境対策に加え成長投資や事業構造変革に資する投資を実施。総額231億円を計画。

<設備投資計画の詳細（抜粋）>

- ・ホームドア設置（汐入駅・日ノ出町駅・京急東神奈川駅ほか）
- ・車両の車体更新・機器更新（1000形）
- ・連続立体交差事業（品川駅付近・大師線）
- ・駅改良工事（京急東神奈川駅など）
- ・非対面型駅窓口の導入

今後の鉄道事業設備投資計画における主な取り組み内容

- ホームドア・ホーム固定柵の設置
- 踏切道の安全対策
- 監視カメラ（車両）設置（駅は全駅設置済）
- 地震・豪雨などの激甚化する自然災害への対策（災害対応力の強化）
- 連続立体交差事業および駅大規模改修工事



⇒近年の社会情勢や多様化するニーズを踏まえ、鉄道事業のさらなる安全対策強化、ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供に向け必要な設備投資を重点的に実施。

(総合経営計画抜粋)

■ 長期ビジョン (京急グループが2035年度に目指すべき将来像)

日本全国、そして世界とつながり、日本発展の原動力である品川・羽田・横浜を成長トライアングルゾーンと位置づけ、国内外の多くの人々の生活と交流を支え、持続的に発展する豊かな沿線を実現する

■ 長期経営戦略 (長期ビジョン実現のための戦略)

エリア戦略

「成長トライアングルゾーン」の発展を支え、そのポテンシャルを推進力として沿線を活性化する

事業戦略

事業環境の変化に対応するための経営基盤強化、事業ポートフォリオ変革に取り組む

コーポレートサステナブル戦略

地域社会および京急グループの持続的発展に向け、ESGへの取り組みを経営のベースと位置付ける

■ 中期経営計画 (2021～2023年度) における鉄道事業の主な取り組み事項

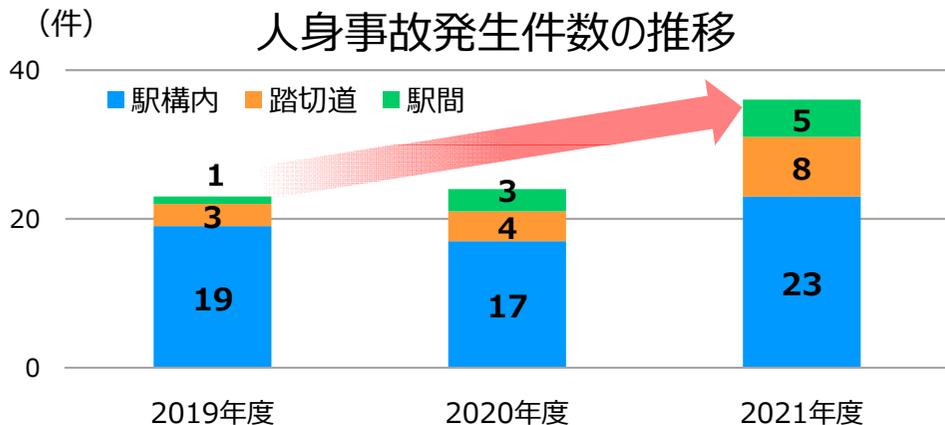
- ・ローコストオペレーションへの変革
- ・沿線活性化
- ・リスクマネジメントの徹底
- ・ESG経営の徹底
- ・お客さま満足度向上

鉄道事業における設備投資計画の位置づけ

長期ビジョンに掲げる「**持続的に発展する豊かな沿線**」の実現に向け、**安全・安心の確保・多様化・高度化する利用者ニーズへの対応**・**中期経営計画に繋がる取り組み**に資する投資を推進する

■ ホームドア・ホーム固定柵の設置

＜京急線内のホームドアの設置状況＞



稼働時期	駅名
2019年度まで	京急蒲田、横浜、上大岡 羽田空港第3ターミナル 羽田空港第1・第2ターミナル
2020年度	京急川崎、京急鶴見
2021年度	平和島、追浜

巡回警備やポスターなどの啓発活動、人の精神を落ち着かせるといわれる青色照明の設置など人身事故防止に取り組んでいるが近年増加傾向

ホームドア設置駅では、
人身事故・転落事故の発生件数は0件
→安全性・バリアフリー機能向上に一定の効果

今後のホームドア・ホーム固定柵設置計画



設置例) 京急鶴見駅



設置例) 汐入駅

お客さまのご利用状況や昨今の事故発生状況などを総合的に踏まえた優先順位をもとに、整備を加速化
⇒**2030年代中ごろまでに全駅でのホームドア・ホーム固定柵の設置**を目指す

■ 踏切道の安全対策

2019年9月の神奈川新町第1踏切道で発生したトラックとの衝突に伴う列車脱線事故を踏まえ、これまでにハード・ソフトの両面での再発防止対策（運転士作業基準見直し・発光信号機増設など）を実施し、今後も取組を継続。



神奈川新町第1踏切道（下り線）に対する発光信号機の増設等

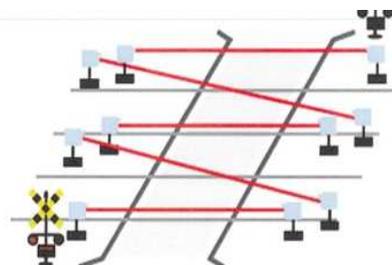
発光信号機の例

<踏切道のさらなる安全性向上に向けた施策>

○ 障害物検知装置の機能強化



従来型の障害物検知装置

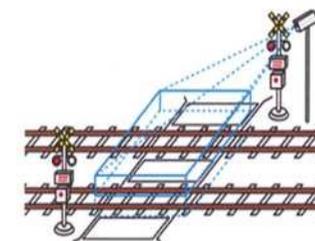


従来型（光ビーム式）の検知イメージ

置き換え



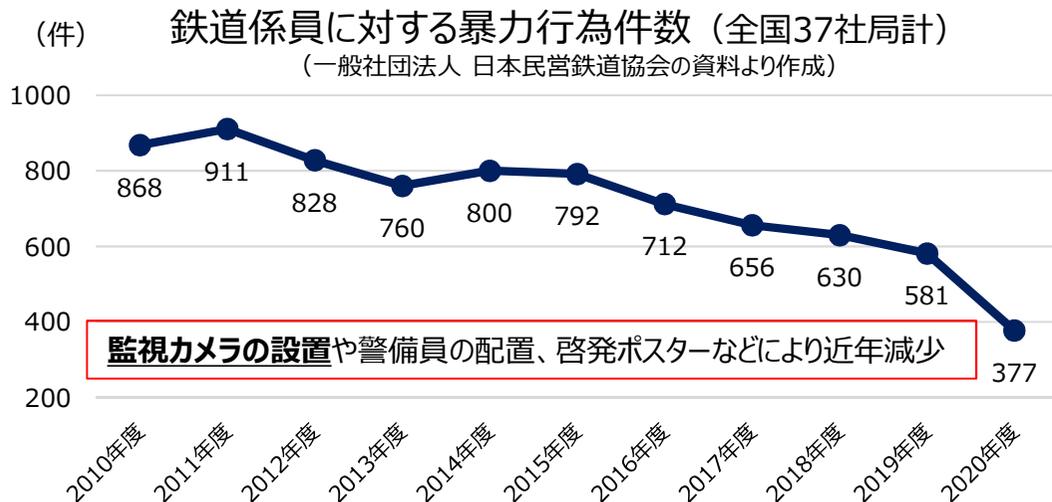
従来より検知領域が拡大した
三次元レーザレーダ方式
の障害物検知装置



三次元レーザレーダ方式
の検知イメージ

⇒ **検知機能を強化した障害物検知装置への置き換え**による踏切道のさらなる安全性向上

■ 監視カメラの設置



監視カメラの設置等により駅係員への暴力は減少傾向
一方、近年列車内や駅などでお客さまの安全を脅かす
凶悪な事件・トラブルが相次いでいる



京急では監視カメラを、
駅：**全72駅に設置済** (計854台)
車両：順次設置を進めていく。
(2100形24両、1000形8両の各車両に設置)

<今後の監視対策の方向性>

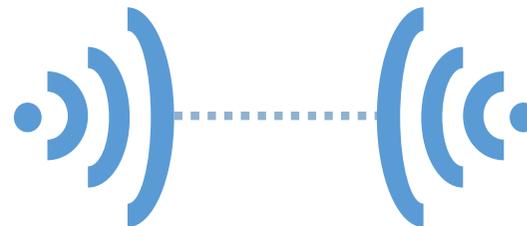


駅監視カメラ設置例
(全駅設置済)



車内監視カメラ設置例
(将来的に全車両に設置)

遠隔監視システムで情報連携



本社・総合司令所などで監視可能

⇒ **今後5年程度で全車両への設置**を目指すとともに、地上での**遠隔監視システムを構築する計画**

■ 地震・豪雨などの激甚化する自然災害への対策（災害対応力の強化）

● 地震対策

将来高確率で発生すると想定される大規模地震への対策強化



平和島駅構内高架橋耐震補強



新馬場駅構内高架橋耐震補強



神奈川駅付近石積擁壁耐震補強

高架橋のほか、石積擁壁の耐震補強工事等を実施し、列車の安全運行を図る

● 豪雨対策

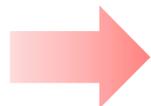
豪雨による土砂災害防止対策

三浦半島を中心に、土砂災害等のリスクが高い地域がある

これまでにハード・ソフトの両面から災害対策を強化



施工前



施工後

六浦～神武寺駅間 法面防護工事

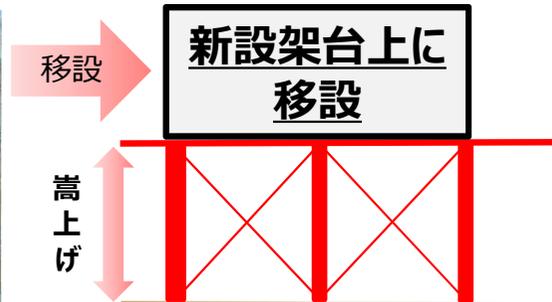
さらなる安全性向上に向け、計画的に工事を推進

豪雨による河川氾濫の被害を小さくする対策

河川氾濫による浸水および台風接近に伴う高潮への対策の実施



川崎変電所 高配用変圧器

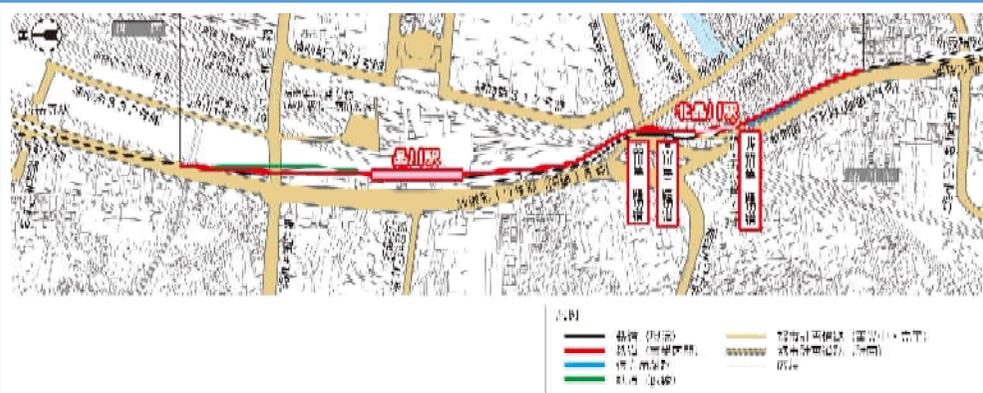


移設イメージ図

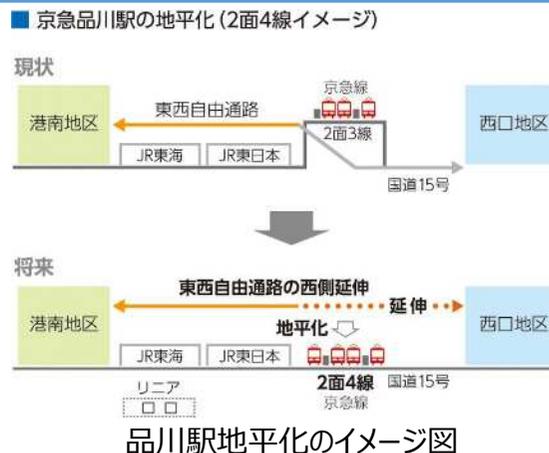
災害発生時の被害の最小化に向け、対策推進

■ 連続立体交差事業および駅大規模改修工事

品川駅付近連続立体交差事業および品川駅鉄道駅総合改善事業 (2029年度事業完了予定)



連続立体交差事業 平面図 (3か所の踏切を除却)



連続立体交差事業による
交通円滑化・安全性向上

鉄道駅総合改善事業
による駅機能向上・
快適なまちづくり

品川周辺の発展・活性化へ

大師線連続立体交差事業 (1期①区間) 東門前～小島新田駅間 (2023年度工事完了予定)



地上部整備の現況



工事桁撤去後の状況

連続立体交差事業による交通円滑化・市街地一体化

大師線沿線の発展・活性化へ

羽田空港第1・第2ターミナル駅引上線新設工事



引上線新設イメージ図

引上線整備による
空港アクセスの輸送力増強
(1時間あたり片道3本など)

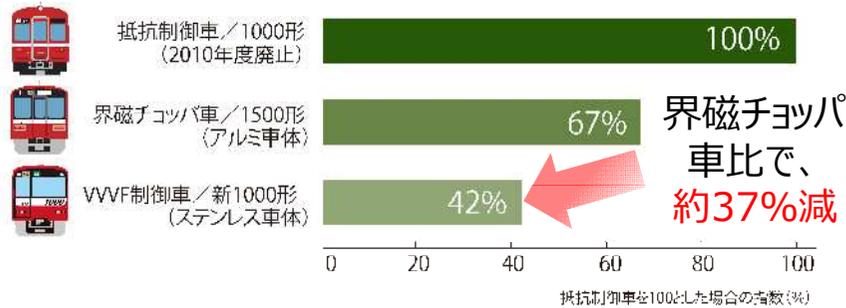
空港機能の拡充および
羽田周辺の発展・活性化へ

国・沿線自治体と協力し、
沿線の発展・活性化に資する取り組みを推進

□ 環境負荷低減に向けた取り組み

省エネ車両への代替による使用電力量の削減

車種による運転用エネルギーの違い



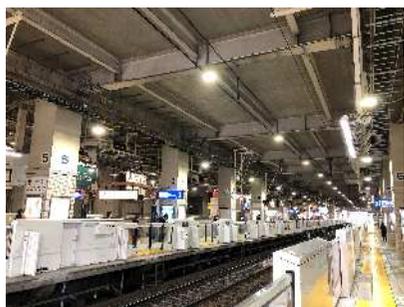
界磁チョッパ制御車・鋼製車の例（1500形）

置き換え



VVVF制御車・ステンレス車の例（新1000形）

LED照明の導入（2028年度までに全駅LED化完了を目指す）



導入例（上大岡駅）

消費電力量の削減
 （既存照明設備と比較して最大50%削減）
 +
 明るさUPによる**視認性向上**
 ⇒**安全性向上**



導入例（車両の前照灯）

- ・客室照明の全LED化
 （2012年3月以降に新造・更新の車両）
- +
 ・LED前照灯（ヘッドライト）の導入
 （2016年度以降）

その他省エネ設備の導入（補助電源装置など）

⇒コーポレートサステナブル戦略の一環として京急グループ全体で取り組む環境負荷低減に向けた施策を推進

- お客さまに選ばれる京急グループの実現 ⇒ お客さまの利便性・快適性の向上

駅改良工事



情報提供設備の充実



ホーム上家延伸



旅客案内設備の充実



旅客案内設備の更新



トイレ改修



エスカレーター・エレベーター更新

車両新造・車体更新・機器更新



旅客案内用LCDの設置



フリースペースの設置



客室照明のLED化



コンセントの設置

⇒多様化・高度化する利用者ニーズに対応し、**ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供**を目指す

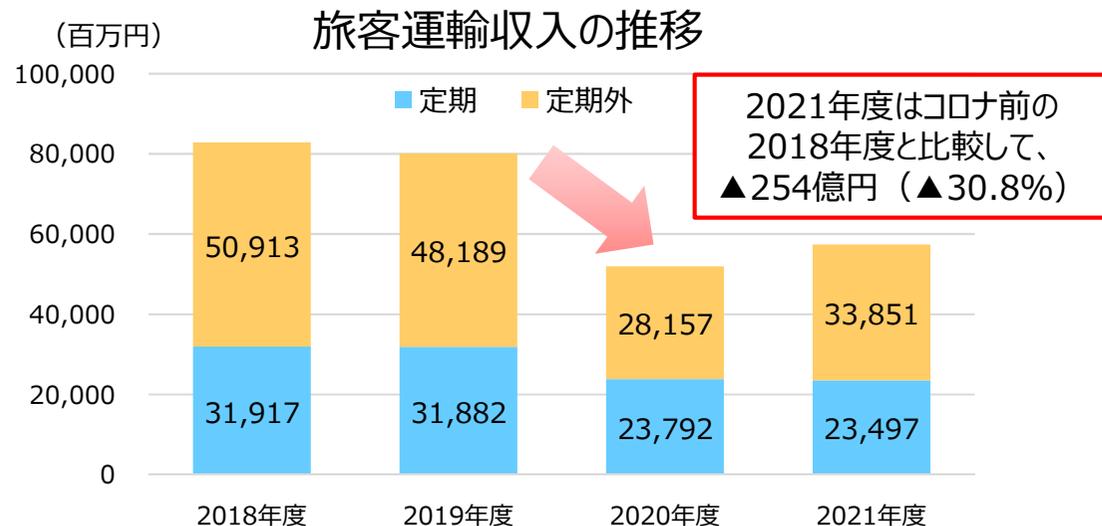
- 事業構造変革に資する投資
 - 非対面型駅窓口（スマートサポートシステム）の拡大

⇒アフターコロナの新たなニーズと将来の労働力不足への対応
省力化と休暇を取りやすい環境整備



スマートサポートシステム
の導入例（上大岡駅）

□ 旅客運輸収入の推移



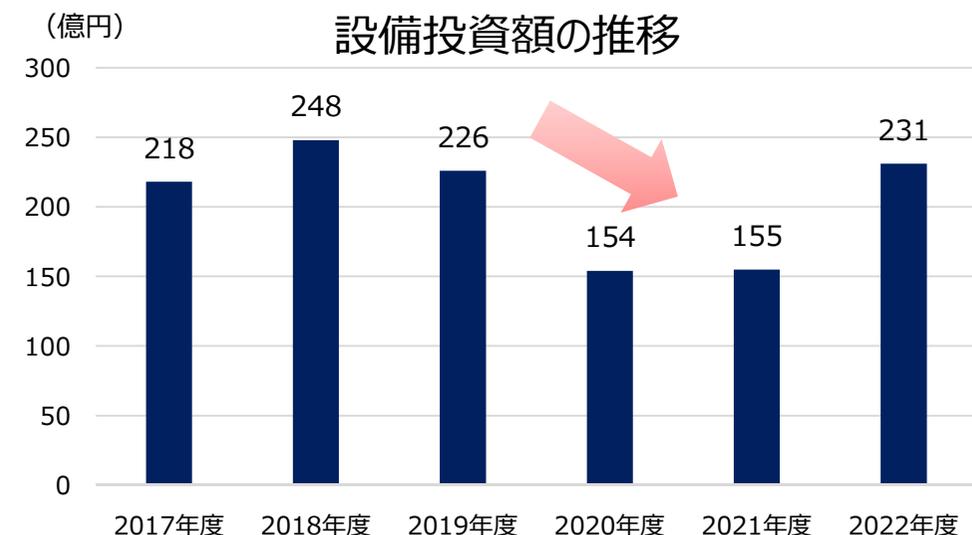
<新型コロナの運輸収入への影響>

定期：テレワークの定着による利用者減少
定期外：行動様式の変化に伴う、
空港旅客の大幅減 など

2021年度は若干回復したものの、
コロナ前の水準には大きく及ばない

**新型コロナウイルス感染症収束後も
コロナ前水準への回復は見込めない**

□ 設備投資



<新型コロナの設備投資への影響>

コロナ禍により、業績悪化に伴う投資抑制や工事の遅れなどが発生し、直近2年間には低い投資水準となった。

厳しい経営状況ではあるが、これまで以上に
安全で快適な輸送サービスを提供していくため、
**2022年度以降もホームドア等の整備や
連続立体交差事業等、多額の設備投資が必要**

鉄道事業運営の最優先事項（安全・安心の確保）

鉄道事業運営の最優先事項である安全性のさらなる向上



踏切道の安全対策



監視カメラ設置



激甚化する
自然災害への対策
(災害対応力強化)

多様化・高度化する利用者ニーズへの対応



ホームドア等設置



駅改良工事

ユニバーサルで快適な
輸送サービスの提供



車両更新



省エネ車両
への代替



照明のLED化

環境負荷低減

中期経営計画に繋がる取り組み

スマートサポート
システム導入



事業構造改革・ES向上

連続立体
交差事業



沿線活性化

長期ビジョン「国内外の多くの人々の生活と交流を支え、持続的に発展する豊かな沿線」の実現

新型コロナウイルス感染症拡大による社会変化・行動変容により、感染収束後も、コロナ前水準への回復は見込めない

適切な設備投資を実施し、鉄道事業運営の健全性確保

今後も徹底したコスト削減と営業努力を前提としたうえで、安全投資等必要な設備投資を実施していくため、運賃改定を検討しております。